

## 令和元年度第3回社会教育委員会議定例会（第31期） 会議録

会議名（審議会等の名称）	令和元年度第3回社会教育委員会議定例会（第31期）		
開催日時	令和元年11月21日（木曜日）午後3時30分～午後5時		
開催場所	文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター610大会議室		
出席状況	委員	10人： 伊藤委員、今宮委員、大澤委員、久津間委員、齋藤（正）委員、齋藤（道）委員、中山委員、長谷部委員、丸田委員、三好委員	
	関係各課	4人： 図書・学び交流課長、スポーツ課長、子ども・青少年課長、文化振興課文化振興係長	
	事務局	2人： 文化スポーツ部図書・学び交流課学び交流係長、同係員1人 学び交流係（259-6104）	
	傍聴人数	0人	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由			
審議又は検討経過及び結果	<p>1 会議次第</p> <p>1 報告事項</p> <p>1) 2020年度生涯学習振興補助金選考結果について</p> <p>2) 令和元年度社会教育委員会に関する研修会等について</p> <p>3) 家庭教育支援に関する事業について</p> <p>2 その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p>&lt;開会&gt;</p> <p>&lt;事務局から配布資料の確認&gt;</p> <p>&lt;議長あいさつ&gt;</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>1) 2020年度生涯学習振興補助金選考結果について</p> <p style="padding-left: 40px;">&lt;文化振興課文化振興係長より説明&gt;</p> <p>（議長）担当課から報告がありましたが、選考委員会に参加された委員もいるため、何か補足があれば説明願いたい。</p> <p>（委員）バランスよく配分されたと思う。</p> <p>（議長）報告事項のため決定事項ではあるが確認しておきたいことなどがあれば質問をお願いしたい。</p> <p>まずダンスの団体について、日時が決まっていないようだが、会場の確保など心配は無いか。</p> <p>（市）この資料を作成したときは決定していなかったが、現在は日時が確定しており、会場の確保はできている。</p> <p>（議長）他にはどうか。</p> <p>では、3団体が選考結果として補助金の対象になったということでご承知おきいただきたい。</p> <p>2) 令和元年度社会教育委員会に関する研修会等について</p>		

(議 長) 資料2によると、既に終わった事業が研修会、連絡会議、地区研究会(小田原会場)がある。それぞれ参加した委員より、様子を報告いただきたい。

では、まず社会教育委員連絡協議会研修会について、どなたかいらっしゃるか。

では、私も参加したので、まずは研修会について報告する。

当日は、日本大学の佐藤晴雄教授による、地域学校協働活動に関する基調講演があり、国が進めているコミュニティスクールに関する先進事例の報告があった。コミュニティスクールについて、より勉強しなければならないと感じた。その後グループ協議があり、厚木の県央教育事務所で行われる連絡会議は県央地域のみ集まるが、研修会は県内の市町村から社会教育委員が来ているため、情報交換はとても有意義であった。お互いの市町村の情報を知ることはとても勉強になる。コミュニティスクールについて、話題が今後増えてくると思うので、社会教育委員としてどのように関わっていけるか皆さんと協議できれば良いと考えている。

続いて連絡会議について、出席された委員から報告をお願いする。

(委 員) 講演は研修会同様にコミュニティスクールについてであり、学校と地域の在り方について、社会教育委員としてどのように何をしていくか方向付けの講演内容であった。その後グループワークがあり、県央地域の各市町村社会教育委員と情報交換が行われた。各市から社会教育委員の事業について報告があり、大和市からの事業報告は、家庭教育支援の講座についてPRしてきた。

(議 長) 続いて、地区研究会小田原会場について報告をお願いする。

(委 員) 小田原市で11月14日に行われた地区研究会には、本市からは社会教育委員3名が参加し、私は初めて参加したが、テーマは「まなびがつなぐまちづくり～小田原ならではの地域資源を活かして～」と題し、会全体として小田原市の事例発表が行われた。

小田原市社会教育委員で玉川大学笹井教授より、社会教育を再認識するため、社会教育とは何かについて講義があった。その後、地域の取組事例について、子どものまなびと大人のまなびの事例発表があった。

子どもの学びについて、放課後こども教室のコーディネーターから発表があり、中1ギャップを起こさないための取組が行われていた点が印象的だった。また、学校ごとに開催時間や曜日も異なるとの話であった。また、大人の学びについては小田原市社会教育委員の神奈川大学齋藤教授から、市民大学講座について話があった。キャンパス小田原から取り組みが始まり、小田原市民学校を作ったという話があった。ここを卒業した人が市内で社会教育の様々な取組を行っているという話があった。

途中のアトラクションでは外郎売(ういろうり)の口上がありとてもよかった。

(委 員) 講義内容が良く、研究会全体としてよくまとまっていた印象を受けた。

(議 長) 地区研究会に行つて、他市町村の取組を学び、本市にどのように取り入れていくか話ができるとういと思ふ。  
今後も引き続き、人権啓発、地区研究会などが控えているがよろしくお願ひする。

～休憩～ (関係各課退席)

～再開～

### 3) 家庭教育支援に関する事業について

(議 長) 資料3を基に事務局から説明をお願ひする。

( 市 ) 事業の報告の前に、講座を欠席された委員もいらつしやるため、先に当日の講座の様子を報告する。

まず講座の冒頭では、丸田議長より社会教育委員や社会教育主事、社会教育とは何かについて簡単にふれながらご挨拶いただき、三好副議長による司会進行へ移つた。

まず、市社会教育主事により「家庭教育ってなに？」と題して、家庭教育に関してパワーポイントを用い、国や市の取組を紹介しながら講義が行われた。その後、親子のふれあいやコミュニケーションの大切さについて学び、親子で体験学習のできる市内の施設等体験マップの作成をグループワークで実施。その後、参加者で内容を共有した。

続いて、後半は会場をコミセンから引地台公園に移し、テレビでおなじみのプロ・ナチュラリスト佐々木洋氏を講師に迎え、親子のできる自然体験学習について、身近な公園を利用し、親が講座で学んだ内容を子に伝え、親子で実践できる内容で講義が行われた。

最初のコミセンでグループワークを行つたグループを活用し、広場でのグループワークや、木の樹皮を使った自然のパズルや昆虫のクイズなどを交えながら講義が行われた。

その後、大和スタジアム内の会議室で講座のまとめの時間として質疑やふりかえりの時間を設けた。

<以降、図書・学び交流課社会教育主事より実施結果の報告>

(議 長) 以上、事務局からの結果報告であり、報告書には「社会教育委員会会議からの意見」の欄があるため、今日の皆さんからの意見を報告書にまとめることとなる。

ご意見をいただく前に、久津間委員よりお持ちいただいた資料について説明をお願ひする。

(委 員) 本日配布した資料について、今回は本校の学区で開催いただき、ご協力に感謝する。まず、1回目の社会教育委員会会議の際にはまだチラシができていなかったため、秋は地域の行事が多く保護者の外出が多いことから、7月に事前に保護者に対し学校とPTAで講座を周知する手紙を送付した。チラシができてから9月に再度各家庭に送付した。当初の申込み方法は各家庭から直接、市の図書・学び交流課へ電話で申込みという方法であったが、申込み

にくいという意見があったことからチラシを修正し、参加申込票を追加したチラシを作成し、PTAにて取りまとめる方法で再度周知を行った。今回、草柳小PTA会長を中心にPTAがとてもよく協力してくれたため、あれだけの人数が集まった。

感想としては、定員を40名としていたことからもっと人数が集まった方がよかったのかなと考えていたが、講座終了後、保護者から意見を伺った際には、講師とコミュニケーションがとれたので、人数はちょうどよかったとの意見だった。グループワークも4～5名のグループとしたことで話しやすく、佐々木先生の話も面白く、あれくらいでよかったとの意見が4～5名からあった。とても有意義だったと好評だった。

(議長) 他にも当日参加された委員からご意見をいただきたいと思う。

(委員) 参加者数が40名の定員に達していなかったが、結果として良かったという参加者からの意見は率直な意見だったと思うので、事業として良かったと思う。「身近な自然と仲良くなろう」や、「自然を学ぼう」というと、参加者が少ないのが現実である。しかし、子どもたちにとってはとても大事なことなので、市としてもっと自然体験について取組む必要があると感じている。また、講座を地道に継続していけば参加者は増えていくと考えている。自身も佐々木さんと手法は違うが同じような活動をしているので、社会教育委員としてお手伝いできる部分はあると思う。

(委員) 前年、草柳コミセンで講座を実施したときは対象を幼児の子をもつ保護者としていた。保護者はもっと来るかと思っていたが、なかなか子どもを置いて出てくることができないということで、参加者が少なかったが今回はターゲットが明確になっておりよかった。

また、柳橋コミセンであったこと、地区の学校の校長先生が委員でいらしたこと、引地台公園であったこと、佐々木さんが講師であったこと、社会教育委員の講座が2年目であったことなどが揃っていたことが、講座の成功につながった。また、定員とした40人という人数は、何かをやるときに2つに分けることが多い人数なので、結果として参加者20人は丁度良かったのだと思う。また、今回の内容は別の会場でも展開ができると思う。ただし中学校でやるとなると次元が異なる。

(委員) 小学生の子を持つ保護者を対象としたのが良かった。地域ですぐにでもやってもらいたいと思った内容であった。自然体験の講座は秋に限らずいつでもできるそうなので、秋は地域で行事が多く、保護者の予定も重なるので別の日程でもよいと考える。

保育ボランティアについて、直前でキャンセルが出たというのはしょうがないと思うが、保育ボランティアは人数がそこまで必要だったか。

(市) 講座開催の直前まで受講者の募集を行っていたことから、保育希望者の申込みが何名あるか不明であったこと、保育対象者の年齢が1歳半～5歳まで、年齢によって保育ボランティアの人数が多く必要となることなどもあり、3名の保育ボランティアをお願い

した。

(議長) 子どもは3名だったか。

(委員) 保育が無いと安心して預けられないので、保護者にとっては必要だと考える。無くしてよいというものではない。

(議長) 保育ボランティアの人数の問題を感じたということだが他にはどうか。

(委員) 受講者が地域の即戦力、地域のリーダーになるにはどうしたらよいかを考えていた。積極的な参加者が多かったので、この講座受講者を繋げていきたいと思った。また、高座渋谷にも公園があり、できるだけ学校単位の実施が良いと考える。次は上和田小学校が良いか。1か所1か所人材を集め、その人を中心に口コミ、仲間内の輪ができていくと、地域の輪は広まっていくと感じた。

(議長) 出席できなかった委員の方は、とても残念だったと思う。本当に残念だったと思うくらい良い研修会でした。人数については皆さんから意見があったように、20名くらいで丁度よかったと思う。また、参加者からのアンケートには「子どもと一緒に参加できればよかった」との意見があったがそれは違う。趣旨がちがう。あくまで「家庭教育支援」の講座であり、保護者がどのように子供と関わっていくか、場を提供したのである。あくまで対象は保護者であり、保護者がわが子に、または近所の子どもに伝えていくことで家庭環境が良くなっていくと考える。今騒がれている虐待などが無くなっていくだろう。子どもとのコミュニケーションの一助として、講座を行ったという位置付けになる。昨年度実施したのは講座受講者が指導者となって地域に広めていくのだという、先ほど委員からも発言があったが、家庭教育支援とは、「保護者が子どもと関わっていくきっかけを与えるという取り組み」とした方が良いのかなと考える。

(委員) その部分については、直接参加者にきちんと伝えなければならないと思う。

(議長) そこが今回は抜けてしまった部分であり、反省点。まさしくその通り。

(委員) 私は当日欠席してしまったが、欠席したからこそ資料から見える部分があり、大人の役割をどのように参加者に伝えていくかが大事かなと考える。家庭で保護者自ら子どもに対して行動できるように促すことの必要性を感じた。

(委員) アンケートの中で、学んだことをやってみたいと思いますか、という問いに対し、ほとんどの参加者が「やってみたい」と答えていることは効果だと考える。

(議長) そこで、今回実施した内容をふまえ、今後どのようにするかということを考えていかなければならない。このまま継続していくのか、本日は時間の関係で、あまり話し合いの時間が取れないため、今後の事業について次回じっくり考えていきたいと思うがいかがか。

せっかくこれまで2年間、教育委員との情報交換から始まり、社会教育主事との意見交換を実施し、3年、4年と続けてきたわけ

だが、これをこのまま終了とするのはもったいない。かといってずっと社会教育委員会議でやっていくのかという疑問もある。下福田では川における取組みが活性化会議であるので、次は川で実施するなど、時間を取って色々考えていきたい。

(委員) 今回は、事務局職員が社会教育主事資格を取って初めて講座を実施したがとても分かりやすかった。せっかく今回のような資料ができたので、今回のような社会教育と学校教育と家庭教育の違いについて、保護者に情報提供してほしい。意識付けをするのは大切だと感じた。保護者は子育てで何をどうしたらよいか悩んでいる人も多いと思う。何かの機会アドバイスとしてお知らせするのもよいと思う。

(議長) 当日参加できなかった委員に対しても、冒頭のパワーポイントの講義資料を後日配布していただきたい。

ではその他、他になければこちらから県社会教育委員連絡協議会の理事会の報告をしたい。来年度の総会は6月15日、19日、22日のいずれか、大和市が担当となっており、当日の受付などの役割がある。また、全国社会教育委員連合の分担金の値上げが決定された。各市町村には直接影響はなく、県社会教育委員連絡協議会の中から支出できるようになったが、社教情報が値上げになるかもしれない。そのような状況が1点。

もう1点は、11月30日に青少年問題協議会の街頭キャンペーンで出席者の報告依頼が来ているが、私は出席が難しい。参加できる人がいれば報告いただきたい。内容は違法看板の撤去と清掃活動。難しいようであれば今回は欠席とする。

～各委員に確認、その後「欠席」となった～

その他、事務局から何かあれば願います。

(市) 次回、年明けに会議を予定しており、1月6日以降、14日までで人数の多い日で確定したいと考えている。

～各委員に確認～

では、次回は1月14日(火)15時30分からとする。

事務局からは以上。

(議長) 以上で議事を終わる。

<閉会>

会議資料

- ・令和元年度第3回社会教育委員会議定例会(第31期)次第
- ・第31期大和市社会教育委員名簿
- ・2020年度生涯学習振興補助金選考結果について
- ・令和元年度社会教育委員に関する研修会等について
- ・家庭教育支援に関する事業について